

令和6年度 第2回 宇美町総合教育会議 議事録（要旨）

日 時	令和6年11月25日（月）14時～15時00分		
場 所	宇美町役場2階 大会議室左		
出席者	安川 茂伸 町長 折居 邦成 教育長 田島 章江 教育長職務代理者 金子 辰美 教育委員 橋本 愛子 教育委員 吉村 順子 教育委員 原田 和幸 副町長		
説明者	教育委員会事務局 学校教育課 川畠 廣典 課長 同 牧草 哲也 指導主事 同 小南 裕彦 指導監（学力向上担当） 同 平松 利明 課長補佐 社会教育課 竹下 健一 課長 同 藤崎 賢 課長補佐 こどもみらい課 入江 和美 課長 同 辻 奈央 課長補佐 事務局 総務課 八島 勝行 課長 同 武富 志穂 係長		
	傍聴者 3人		

1 議題

(1) 令和7年度 重点事業等について②

～子どもをうみ育てやすい“教育立町うみ”の実現～

学校教育課から確かな学力の育成について、社会教育課から①子どもの読書活動の推進等、②地域のスポーツ活動の推進等について、こどもみらい課から地域の子ども・子育て支援事業の充実等について説明を行いました。

その後、総合教育会議の構成員である町長と教育委員が意見交換を行いました。会議における各構成員からの主な意見は次のとおりです。

・確かな学力の育成

(委 員)

11月9日に宇美町少年・少女の主張大会、こども会議等で、子どもたちの様々な主張や話し合いの様子を見て、町の子どもの潜在能力の可能性を感じた。子どもが育っていくことが学校の目標なので、あの姿を全員が意識しながら、日々の教育活動を行うともっと伸びると思う。学力は関係者が努力して成果を出している。中学校も以前に比べると学ぶ意欲や姿がよくなつた。

ただし、先生方も多忙なために伸び悩んでいるところがあると思う。子どもの潜在能力を引き出すために、幸福感も人間関係も大事だが、夢や志、地域を大事にしたいというところを、学校で意識しながら、休み時間から昼休み、授業、部活動に至るまでやっていくといい。町のみならず、日本の子どもたちみんなが燃える生き方が遠のいている。有名なものや志を、町は特に他所と違うということでやっていくと、今までの施策や努力が伸びていくと思う。

そして、さらに日本が明治以降伸びてきたのは、寺子屋のような塾等や地域の伝統文化だと思う。宇美町は地域の伝統文化もあるので、日本にとっても町にとつても危機的な状況かとは思うが、そこを改めて見直していけばいい方に傾くと思う。

(町 長)

夢、志を持つことが町に誇りを持つことに繋がる。宇美町に生まれ育ったことを、小中学生が誇りに思えるようなまちづくりが大切であり、そのような教育が求められている。

(委 員)

子どもたちの意見で、地域の公民館などを活用して地域の人と関わりたいという意見があったことは本当に喜ばしいことだ。是非、地域の方々が古き良き日本や、町のことを教えてくれる存在になってほしい。

(町 長)

子どもたちは、勉強やスポーツ、また将来の仕事のことなどを「地域の人から学びたい」という思いを持っている。やはり「地域」が今後のキーワードになってくる。学校と地域の連携は昔から言われている言葉だが、古くて新しい言葉ではないか。

(委 員)

5、6年ぐらい前だと育成会で子どもたちが、5~60人は集まっていたが、10人ぐらいしか集まらなくなつたという話が出て、この何年間かで集まらなくなつてきている。ある育成会は解散したと聞いた。

しぇず・うみで教えたといふ人がいる話をしたら、社会教育課に登録制があり、そこに登録している方が多くいると聞いたが、それをコーディネートする人がいない。結びつける役目をしている人がいないというのと、地域にもその人がいない。それを実現するには、セッティングする人がいないと、子ども会そのものが解散している。

地域も家庭も懇談会など学年で一桁しか親が集まらないという現実もあり、学校だけ頑張ってもうまくいかず煮詰まっている状態なので、突破口を見つければ、学校にしわ寄せが出て、ますます先生が大変な状況になる。私がしぇず・うみに勤めているので、まずそこから何かできることがあるのではというのを絶えず思っている。

神戸市が2クラスを3人で月替わりをするグループ制を行っている。実際に学校に先生を派遣して見てもらうのもいいと思う。どこかで大変革を起こさないと、今まで色々なことをやっていることも、これ以上手立てがなくなってしまうことと、見える学力、見えない学力は、子どもだけでなく、私たち大人にも該当することではないかと思う。

(町 長)

11月9日に、子どもたちに「あなたたちは町民の9%に当たる大切な宇美町のメ

ンバーであること」を伝えた。子どもたちも町の主体者であるということを動機付けていくことも大切だ。地域の公民館の掃除に子どもたちが来て、怪我をするから何もしなくていいというようなお客様的な扱いをしていたように思う。危険なことはさせられないが、大人と一緒にこうしたら危ないなども教えていかなければならない。

(委 員)

約10年前にCSが立ち上がった頃、丸付けやボランティアだけだったが、そこから挨拶運動や、宿泊学習・家庭科の教育実習など、CSのボランティアの方が先生と協力して活動してくれた。家庭科の皮むきでは普段目立たない子も輝ける。

そのような方たちをゲストティーチャーとしてお招きして地域の方と交流すると学べることがあるのではないか。

(町 長)

子どもたちは、自分の行いが役に立つことで、伸びたり褒められたりしたら嬉しいと思う。子どもたちの承認欲求を満たしていくことも必要である。皆さんの意見を聞いて、学校と地域、子どもと地域を結ぶコーディネーションや繋ぐ何かが必要だと感じた。

(委 員)

地域の力という意味では、書道の教室にとても元気な子どもが入ったが、今や、書道とダンスに来ている。きちんとダンスを踊ったし、しっかりした書道の作品を出した。家族の力もあるが、場面に入れることも大切。周りの大人がうまく合わせてくださり、すごく成長した。今年のフェスタでの作品も立派でダンスも皆の中心となって踊った。周りの力をすごく実感した。

(町 長)

私の子どもの頃は大人が様々な場面で関わりがあった。勉強だけでなく習い事など、他者との関わりが多ければ多いほど、子どもは人間性が豊かになる。学校教育も大切だが社会教育も非常に大切だと思う。

- ・子どもの読書活動の推進等
- ・地域のスポーツ活動の推進等

・地域の子ども・子育て支援事業の充実等

(委 員)

読書について、小学校6年生と中学校3年生のデータでは、全く読まれてないという項目が高い。その背景として、情報を得るためにには、目の前のスマホやパソコンで満足しているからだと思う。日本以外の様々な国で同じような傾向が出ている。そのことに早く気づいた外国はどうしているかと言うと、デジタルよりも実際の本の方が楽しいといった時間を増やしていった。結果的には、バランスを取れるというか、これから先は、デジタル機器と従来通りのアナログ的な読書が共存している世の中だと思う。なので、より読書が楽しいということを強調するようにやった方がいい。

幼稚園、保育園、小学校、中学校で、読み聞かせの時間や読書の時間をたくさん入れていくことが、世界の動きから行くと理にかなっているのではないか。

本を読む時は、悩んだ時期と重なっていると思う。同じように、なぜ本を読まないか。それは、生きることに切実感がないからだと思う。学校で考えることの楽しさを教えていく。考えることに刺激を与える地域の方が必要だと思う。

(委 員)

今、大人が本を読まない。家庭で本を読むという習慣がないところに、子どもにだけ本を読ませるのは少し難しい。本が好きな子どもは、結局小さい頃からの習慣だと思う。だから、家庭でできないところを協力して、積極的に機会を増やしてあげる。道徳心などは本から学ぶことが1番多い。ぜひとも小さい頃に、そういう機会を増やす。

(町 長)

まさに家庭では難しいところも増えている。地域なり、地域の図書館だろうと思う。本が手を伸ばせばそこにあるという環境はものすごく幸せなことだ。ただ、色々な事情でそうではない家庭もある。

藤原正彦さんの著書に「祖国とは国語」があり、そこには、国語教育は知的活動の基礎である。論理的な思考を育て、情緒を培うと書かれている。今、どちらかというと英語に走っているが、国語はやはり私たちの基礎だと。私もその通りだと思う。そういう意味では、やはり図書館が肝になり、町には平成19年に立派な図書館ができた。どちらかというと建物に皆さんの関心があるが、中にある本や、様々な読書活動を評価していただく取組を引き続きやっていかなければならない。

(委 員)

調べる学習コンクールの審査を今年もさせていただいた。優秀な賞や大人が読みながらうなってしまう作品は、5～8冊の本を読んでいて、自分で理解し、分かりやすく紙に書いたり、色を変えたり、ネットでは調べられないことをしっかりと調べている。絵を描き、表紙の作り方や自分の考えがまとめられている。

宇美町は素晴らしい子どもたちがいることを再確認した。私も学校で働いているが、金曜日に10分位時間があり、そのうちの5分は読書している。ストレス値が下がる効果があるようだ。3年位続けており、自分のスイッチの切り替えとなる。

大人もできるので、先生も忙しいし、仕事もあるが、宇美町は、子どもに読みなさいではなく、大人も本を読むようにできたら。

(町 長)

読書は、行間を読み空間を読み全てを語らない。だけど、こういう気持ちなんだろうな、こういうことが言いたいんだろうと、子どもたちが想像力を働かせる。そういう意味では、読書は有効であるというのも明らか。

(委 員)

図書館から各保育園に絵本が巡回することを以前聞いたことがある。忙しいお母さんが直接図書館に行って本を借りることは多分できにくい。だから、手続きがなくても子どもが借りたい本が家に持て帰れるような、柔軟なことはできないか。

本が傷むかもしれないが、痛むより大切なことがあると思う。週末はみんな1冊本を持って帰って、日曜日持ってくるというイメージだ。

以前スリランカに本を送るボランティアをした時に、子どもが本を読んでいたら、親も一緒になって本を読む機会ができたというデータがあった。図書館に行かないし借りられないではない別の方法が何か考えられないか。

保育園に関して検討をお願いしたい。

(委 員)

スポーツというと分野が広いが、体を動かしていいなと感じる。読書と同じように小さい頃から味わわせるために、若杉山に登るなど企画を立て、そこにボランティアとして中学生、高校生、大学生を入れて、様々な年代で山に登ることによって、小さい子どもたちが、大人になるということ、近所の大人に昆虫のことを教えても

らったとか、積み重ねが体を動かす、ひいては、地域スポーツとか生涯に繋がる。

私は部活経験があるが、勝つか負けるか、きついかきつくなかった。もっとリラックスしてスポーツに楽しむ、地域の山登りとかハイキング楽しむような活動がいいと思う。

スポーツに限らず読書活動も、中高生、大学生のボランティアを入れていく。やってみたい若者は多い。やりたいけども、どこの窓口に行ったらいいのか分からぬ。そこをより啓発、広報で啓発していけばと思う。組織の動きももちろん必要だが、善意から、つまり町のために貢献したい、幼い子どものために貢献したい気持ちを引き出していく活動がこれから望ましい。

(委 員)

小学校で年に1回ぐらいボッチャ大会があり、子どもたちが好きなスポーツ。お年寄りも一緒にできるので、地域との結びつきとして使うのもいいと思う。

ジュニアリーダーがいて、中学生、高校生のボランティアがいて、地域の方がいてという構図はすごくいいと思う。

(町 長)

昔はソフトボール、バレーボール、相撲等、競技スポーツが多かった。今は、軽スポーツのように簡単で子どももできるし、高齢者もできるスポーツがある。昔は、地域の中で異年齢が自然とあったが、今は不可能なので、意図的に作り出す必要がある。

(町 長)

全体を通して思ったのが、やはりキーワードとしていくつかあった「地域」という言葉が出てきた。様々な活動をつなぐコーディネーター、コーディネーションが必要なこと、ボランティアしたい、町のために何かしたい、子どものために何かしたい人はたくさんおられると思う。そのような人を掘り起こして繋ぐ役割がとても大切だと思った。

(教育長)

本当に忙しい中ご参加いただき、本当にいつもありがとうございます。

教育振興基本計画や、今策定中のこども計画に大きな目標がある。宇美町が掲げる山の頂上、山の頂を目指す道しるべを整理している。

「ふるさと“宇美”を愛し」の部分は変えまいと考えている。ふるさとのために何か力を尽くしたいとか、頑張りたいとか、そういう子どもたちが、どんどん成長してほしいと思っている。こども会議の意見の中で、地域の建物で地域の人から学びたい、ふるさと宇美を大事にしたいという子どもの意見表明については、我々がしっかり支え一日も早く形にしていきたい。

地域コミュニティ課とも連携しながらコーディネートしたり、さらには大学生を含めたボランティアをうまく繋ぐことも模索し、子どもが安心して学べる環境を作りたいと思っている。

例えば、すごく仲のいいクラスがあって、その中で主体的に粘り強く子どもが頑張れば、おそらく学力が上がる。すごく仲のいいチームがあって、その中で子どもが主体的に粘り強く練習に取り組めば、おそらくそのチームは強くなる。昔から感覚的に分かっていることだが、なかなか数字に表しにくい。いわゆるその見えにくい部分を教育の中では大事にしていきたい。

少なくとも、小学生 8 パーセントと 13 パーセントの中学生は、家でも学校でも幸せを感じていない。我々としては、例えば学校にいる時は、もしくは授業を受けている時は、なんか幸せだなど子どもたちが思えるような、前のめりになるような、子どもに委ねるような授業改善をしっかりと進めていきたい。

先日、教育委員から、保護者に学校にもっと関心を持ってほしいと意見が出て、すぐに校長会で伝え、校長先生方もすごく共感された。早速やってみますと言っていただいているので、通信などちょっと変化が見られれば、教えていただけたらと思う。

子どもが習字をしたい、本を読みたい、フラダンスをしたい、ボッチャがしたいなどと思った時に、学びであったり、スポーツ、芸能など、とにかく速やかにアクセスできるように環境をしっかりと作っていきたい。子どもがスポーツしたい、本を読みたい、もっと勉強したい、うみっこ健診に連れて行ってなど、子ども自身が言うことで、その保護者の教育に対する関心は高まると思う。保護者に対して一生懸命言うより、子どもたちが家に帰って話ができる、意見交流できるような、子どもに育ってほしいと思っている。

少しでも形にできるように頑張っていきたい。

(町長)

事務局は、この議論をしっかりと政策に反映するようにしていただきたい。貴重な意見や建設的な意見、すぐにでも取り組めるような意見をいただいたので、しっか

り施策に反映していただきたい。

(議事録署名)

以上が会議の議事内容であり、確定するために次に署名する。

この議事録は、令和 7 年 1 月 31 日に構成員折居教育長及び吉村委員が署名の上、確定したものである。